



・モンゴルの伝統的な楽器・馬頭琴のブースでは民族衣装に身を包んで



セミオーダー家具とアクセサリー、ファッションのブース「4passi」



和太鼓グループ「REN神戸」の力強い演奏



飯田美奈子さんの  
美しい歌声でオープニング

世界のクリエイターたちが  
オリジナル作品を出展

2/23 オープン

【TEN×TEN】のテンは、  
展示の展、店舗の店、起点の点、  
空の天、そして  $10 \times 10$  二  
千人（二千人）のクリエイターたち  
のこと。クリエイターたちのユ  
ニーケな才能が集結して、2  
月23日、波止場町の神戸市国  
産上屋1号・2号倉庫を改造し  
てオープンした。神戸はもとよ  
り、日本各地、世界の国々から  
アーティストがオリジナル作品  
を持ち寄り、ブース展開を行な  
う。家具、木工、陶器、絵画、  
楽器、アクセサリーなどなど、  
とても書ききれない。

オープニングは、オペラ歌手・

声で幕を開けた。鶴崎功神戸市  
助役、国土交通省近畿地方整備  
局藤田郁夫副局長がお祝いにか  
けつけ、メッセージを。また井  
戸敏三兵庫県知事からのメッセ  
ージは清原桂子兵庫県理事が代  
読。その後、和太鼓「REN  
神戸」の祝い太鼓が鳴り響いた。



**OPEN時間 11:00～19:00**

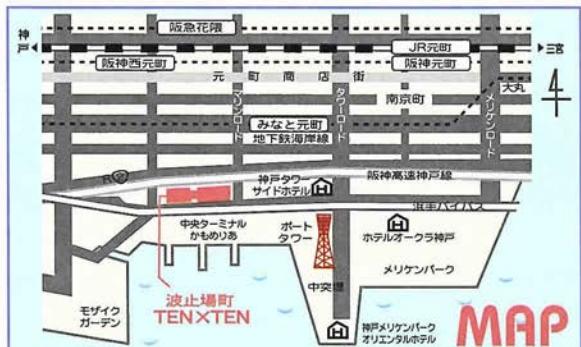
■神戸波止場町TENXTEN 神戸市中央区波止場町6-5

■お問合せ／NPO法人神戸グランドアンカー

神戸市中央区東町122日本真珠会館3階 ☎078-332-3185

<http://www.k-anchor.org>

オリジナリティあふれる幅広いジャンルのブースが並ぶ



TENでは、ブース展開だけでなく、土曜・日曜を中心にさまざまなイベントが企画されています。4月16日(日)は、モンゴル帝国建国記念日に当たり、馬頭琴やモンゴル舞踊とともにモンゴルの文化・生活を紹介。9日(日)のブルースの夕べ、23日(日)ピアノ弾き語りなどのライブも予定されています。出展クリエイターによるワークショップや体験教室も、毎週企画されているので、ホームペー  
ジや、TEN×TENから月刊で発行されているパンフレットでチェックしてみて。



第15回

# 神戸つ子賞

受賞者発表

月刊神戸つ子創刊30周年を記念して創設した「神戸つ子賞」。分野を問わず、長年の活動の蓄積によって、神戸文化の振興とイメージアップに功労のある方に賞を贈らせていただきます。  
 (授賞式は4月5日新神戸オリエンタルホテルにて)



太田 敏郎  
おおた としろう

（株式会社ノーリツ名誉会長）

新野幸次郎  
石阪 春生  
武田 則明  
小泉美喜子  
しんのうじさぶろう  
いそはせ はるお  
たけだ のぶあき  
こいずみ みきこ

選考委員

第34回

# ブルーメール賞

受賞者発表

月刊神戸つ子創刊10周年を機に、神戸の文化を推進するために、文化賞「ブルーメール（青い海）賞」を創設しました。各部門別に選考会を開いた結果、左記の5名の方に賞を贈らせていただきます。

(授賞式は4月5日新神戸オリエンタルホテルにて)

選考委員

高橋 たかはし  
詩人

富美子 ふみこ

鈴木 安水 伊勢田史郎  
すずき やすみ いせた しろう  
穂 慎和 漠



第15回神戸つ子賞 第34回ブルーメール賞 協賛企業

**santica**  
神戸地下街株式会社

**伊藤ハム**  
伊藤ハム株式会社

**ひょうしん**  
兵庫信用金庫

**UCC**  
UCC上島珈琲株式会社

**Sysmex**  
シスメックス株式会社



◆ ファッション部門

高田 恵太郎  
たかだ けいたろう

（神戸コレクション  
エグゼクティブプロデューサー）

西川 鈴木 見寺 章子  
にしづか すずき みでら あきこ  
小泉美喜子 貞子 勝実  
こいずみ みきこ さだこ かつじま

選考委員



◆ 舞台芸術部門

上田兄弟会  
うえだきょうだいかい  
（能樂師）

岡田 佐野 村井 顯彦  
おかだ さの むらい けんげん  
美代 淣箕  
めだ はんき

選考委員



◆ 美術部門

澤田 知子  
さわだ ともこ  
（写真家）

河崎 晃一 越智裕二郎  
かわさき こういち 越智 ひろじ  
二郎

選考委員



◆ 音楽部門

尾崎 比佐子  
おざき ひさこ  
（声楽家）

小石 中西 韶  
こいし なかにし ひづる  
忠男 敏也 弘則  
ちゆうやく みんやく こうそく

選考委員

第15回神戸っ子賞 第34回ブルーメール賞 協賛企業

鬼塚喜八郎

株式会社  
オールスタイル  
総本社

**Asahi**  
アサヒビール

**FELISSIMO**  
株式会社 フェリシモ

行吉学園  
神戸女子大学  
神戸女子短期大学

(順不同・敬称略)

## ●第十五回 神戸つ子賞

神戸ルミナリエ開催と、継続に尽力



### ■選考委員



小泉美喜子（本誌総編集長）



武田則明さん（建築家）



石阪春生さん（画家）



新野幸次郎さん  
(神戸都市問題研究所理事長)

### ■選考経過

長年の活動によって神戸の経済発展や文化振興に功績のある方に贈られる賞。

前神戸市長で、現在（財）神

戸国際協力交流センター理事長の笹山幸俊。兵庫県教育委員長などをつとめ、幼児教育にたずさわってきた明進会理事長の並川明子。日韓の交流に尽力した日韓親善協会の砂野耕一

会長。真珠のまち神戸の代表格・田崎真珠の田崎俊作社長。棋士の谷川浩司。兵庫県団碁連

盟代表幹事などをつとめ、囲碁の普及のために紙の碁盤を寄贈するなどの活動を行なつていている

西村修。ヒューマンケア研究機構理事長・野尻武敏。震災後、都市や建築物の抱える問題を研究、都市問題を提起し続けてきた室崎益喜、安田丑作。横溝

正史の生誕地記念碑の建設に尽

# 太田敏郎

力した東川崎町自治会長の

後藤実。また、オリックスファローズ前監督・仰木彬の急逝が惜しまれた。

今回授賞の太田敏郎は、毎年授賞候補に挙がってきた。當時としては画期的な風呂釜を扱う能率風呂工業を創業、その後（株）ノーリツと社名変更し、本業はお湯にこだわりながら神戸経済界で活躍、震災後、神戸ルミナリエ組織委員会で、神戸ルミナリエの開催に大きく貢献した。

（文中敬称略）

### 歴代受賞者

1. 淀川長治（映画評論家）
2. 朝比奈隆（指揮者）
3. 陳舜臣（作家）
4. 宮崎辰雄（前神戸市長）
5. 中内功（ダイエー創業者）
6. 中西勝（画家）
7. 東山魁夷（画家）
8. 妙尾河童（舞台芸術家・エッセイスト）
9. 高村勲（コープこうべ名誉理事長顧問）
10. 新野幸次郎（神戸都市問題研究所所長）
11. 鬼塚喜八郎（アシックス会長）
12. 貝原俊民（前兵庫県知事）
13. 下村俊子（神戸嵐月堂代表取締役社長）
14. 林 同春（神戸華僑総会名誉会長）

## 推薦のことば



神戸ルミナリエ点灯式にて

海軍兵学校での人間形成を誇りにして清潔で、たくましく、かつ、人おもいの素晴らしい経営者、(株)ノーリツ創業者の太田敏郎さんることは、ご存じの方も多い。その太田さんは、大震災の時は神戸商工会議所の副会頭でもあられました。それもあって、震災復興にも色々と大変な貢献をしてこられました。その最大のものの一つは、神戸ルミナリエの募金活動でした。ルミナリエには6億円ほどの費用がかかるといわれていました。

大震災で大きな被害を受けて経営上の困難をかかえていた企業からこれだけのお金を集める事は大変な事でした。しかし神戸っ子として太田さんは海兵魂を發揮して、まったく一人で一社あたり数百万元から数千万円と集めてゆかれ、人々の魂をゆさぶるルミナリエを実現し、今日まで続けておられるのです。自分のことしか考えない人の多い今日、私たち神戸市民は、太田さんがこの街にいることを誇りにしたいと思います。

（新野幸次郎）

## ●第三十四回 ブルーメール賞（文学部門）

充実の作品群、今が書きざかり



■選考委員



伊勢田史郎さん（詩人）



安水穂和さん（詩人）



鈴木 漢さん（詩人）

### ■選考経過

一昨年から今年にかけて発表された詩集の中から、秀作が選ばれた。

**岩井八重美**『水のあるところ』

は、日常を舞台にしながら、人間の普遍的な喜び、悲しみに浸透してゆく生活詩と高い評価。長く執筆を続ける井口幻太郎『アルカディアの食事』『旧街道の通過する町』、坂東里美『タイ

フーン』、玉川佑香『かなしみ祭り』、生き生きと感性溢れる

中本百合枝『月につるした玉葱』、中谷恭子『緑色の目の犬』。自身の子供の頃や、学校現場をテーマにした彼末れい子『ほほえみの人』。出自である大三島を思わせるのびのびした作風の在間洋子『船着場』。第1回中原中也賞、第41回土井晩翠賞を受賞した実績のある豊原

清明が『時間の草』を上梓。

結果、最新詩集『塔のゆくえ』が高い評価を受けた高橋富美子に今年度の授賞が決定した。  
(文中敬称略)

# 高橋富美子

### 歴代受賞者

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 中村隆（詩）     | 18. 森栄枝（小説）   |
| 2. 齋承博（小説）    | 19. 田中紀子（詩）   |
| 3. 小泉八重子（俳句）  | 20. 夏巳ゆらこ（小説） |
| 4. 福元早夫（小説）   | 21. 渡辺信雄（詩）   |
| 5. 三宅武（詩）     | 22. 吉田典子（小説）  |
| 6. 秋吉好（小説）    | 23. 村中秀雄（詩）   |
| 7. 江頭越子（詩）    | 24. 大塚雅子（評論）  |
| 8. 桜井利枝（小説）   | 25. 増田まさみ（詩）  |
| 9. 梅村光明（詩）    | 26. 野元正（小説）   |
| 10. 吉保知佐（小説）  | 27. 岩崎風子（詩）   |
| 11. 村田敏夫（詩）   | 28. 毛丹青（エッセイ） |
| 12. 福岡勝利（小説）  | 29. 由良祐知子（詩）  |
| 13. 時里二郎（詩）   | 30. 北原文雄（小説）  |
| 14. 松尾美恵子（評論） | 31. 今村欣史（詩）   |
| 15. 武田信明（詩）   | 32. 上村武男（小説）  |
| 16. 山西史子（小説）  | 33. 水こし町子（詩）  |
| 17. たかどう匡子（詩） |               |

## ■推薦のことば

高橋富美子のはじめての詩集

編集工房ノア刊



高橋富美子  
塔のゆくえ

## 塔のゆくえ

みごとな落日を背に 海峡の激しい潮の流れ

を見下ろして 永遠のようにそこに立つて

いた わたしたちの白い塔 それが大地から  
根こそぎ引き抜かれたときの 悲鳴のような

音が その場に居合わせなかつたものの耳に

届くわけもなく わたしに出来ることといえ  
ば 巨大なクレーンが かぼそい尖塔を引つ  
さげて真昼の海を渡つたという その光景を

ほの白い月が照らす夜の航路に おろおろと  
浮かべてみるだけだ

『魚のボーズ』は豊かな才能を感じさせるいい詩集だった。感性の祝祭。次の詩集『駒袋』は将棋詩集。おそらく類書はないユニークな詩集。このたびの詩集『塔のゆくえ』は生と死を考えるいのちの詩集。充実の詩集である。

「一滴の水をもこぼすまいと  
／口許をかたく結び／はだしの  
足裏でしつかりと大地をとらえ  
て／あなたは／永遠に水を運び  
続ける少女である」（「水を運ぶ  
少女」結び）。

少女は詩人で、水はいのちで。  
身近な日常の生活から、見知ら  
ぬ人々や遠い国の事件まで、今  
生きている私たちに繋がる多くの  
のいのちを確かめる確かないの  
ちの歌である。

書きざかりという言葉がある。  
高橋富美子は今書きざかりの書  
き手である。この先信頼できる  
書き手といつてい。海と橋を  
望む垂水の地に住むこの詩人、  
神戸の文学賞ブルーメール賞に  
ぴったりだ。

（安水稔和）

## ●第三十四回 ブルーメール賞

（音楽部門）

完熟の季節を歌う



# 尾崎比佐子

## ■選考委員



中西弘則さん  
<神戸新聞東京支社編集部長>

吉野敏也さん  
<作家・音楽評論家>

小石忠男さん  
<音楽評論家>

■選考経過  
神戸、関西の音楽界で活躍する音楽家、全国的、国際的に活躍の場を広げる音楽家たちの名前も多く挙がった。

尾崎比佐子は、昨年5月の釜演を続けるテノール・松本薰根真の名前も。着実に舞台出

演を続ける小栗まち絵。彼女のもたら世界舞台で活躍の場を広げた若手・木嶋真優、世界的有名なジャズピアニスト・小曾根真の名前も。着実に舞台出

## 歴代受賞者

1. 田原富子(ピアノ)
2. 矢野恵一郎(合唱指導)
3. 上月倫子(バレエ)
4. 今岡頌子(バレエ)
5. 小石忠男(音楽評論)
6. 中村茂隆(作曲)
7. 関晴子(ピアノ)
8. 坂本環(声楽)
9. 山内鈴子(ピアノ)
10. 松本幸三(声楽)
11. 伊藤ルミ(ピアノ)
12. 井上和世(声楽)
13. 末広光夫(プロデュース)
14. 安芸栄子(声楽)
15. 延原武春(指揮)
16. 中西覚(作曲)
17. 青井彰(ピアノ)
18. 広岡隆正(声楽)
19. 戸洋子(ピアノ)
20. 大前哲(作曲)
21. 中野慶理(ピアノ)
22. 田中修二(ピアノ)
23. 岡本一郎(リュート)
24. 畑儀文(声楽)
25. 金洞祐人(声楽)
26. アート・エイド・神戸(プロデュース)
27. 鈴木雅明(指揮・チェンバロ)
28. 北浦洋子(ヴァイオリン)
29. 林裕(チエロ)
30. 井原秀人(声楽)
31. 田中敬子(ピアノ)
32. 松原千振(指揮)
33. 唐澤まゆこ(声楽)

（文中敬称略）

まず、さまざまなコンクールでその楽曲が課題曲に選ばれるなど、活躍を続いている作曲家・千原英喜。日本やアジアの伝統芸能、民俗的要素を盛り込んだ風が特徴だ。着実な活動と、独自の視点からの文学性豊かな音楽作品の水準の高さに、注目が集まっている。コロラトゥーラ・ソプラノとして抜群の技巧と評価の高い福永修子は、最近の安定かつ充実した舞台活動が評価された。若手ヴァイオリニストの育成に多大な功績がある小栗まち絵。彼女のもたら世界舞台で活躍の場を広げた若手・木嶋真優、世界的有名なジャズピアニスト・小曾根真の名前も。着実に舞台出

演を続けるテノール・松本薰根真の名前も。着実に舞台出

洞祐子プロデュースオペラ「カルメル会修道女の対話」での肉のマザー・マリー、そして今年2月の、ベッリーニ作曲「ロメオとジュリエッタ」でのジュリエッタ役など、多くの舞台で充実の歌唱力を發揮した。

## ■推薦のことば

天才少年や天才少女という種族が、芸術やスポーツの世界で特に珍しくない時代だ。



「ロメオとジュリエッタ」2006年2月15日 ザ・フェニックスホール より

音楽でも、年少の天才がピアニストやヴァイオリニンの分野で大量生産されている。ただし声楽の分野にはない。声楽では、大人の身体と声と技術、それに大人の心が完成されて初めて、本物の表現が可能。ピアノやヴァイオリンのように「子供ながら大人顔負けの腕前と表現」なんて珍現象は、声楽ではありえない。歌は歌い手の人間性の反映だ。

では、大人の技術と大人の心を持つた声楽とは、どんな本物の世界を聴かせるのか。知りたければ、尾崎比佐子のソプラノを聴けばいい。抜群の説得力ある声の浸透力も、歌詞の伝達力も、華麗な技巧を駆使して飛翔する歌唱法コロラトゥーラも、すべて大人の完成度だ。昨年のオペラ「カルメル会修道女の対話」での名唱も鮮烈だった。

まさに今、尾崎は声楽家として成熟の頂点にある。完熟の季節を迎えている。そこに照準を合わせた授賞なのだ。

（轟  
敏也）

## ●第三十四回 ブルーメール賞

〈美術部門〉

美術界に彗星のように現れた「顔」



# 澤田知子

## ■選考委員



河崎晃一さん  
＜芦屋市立美術博物館学芸課長＞



越智裕二郎さん  
（兵庫県立美術館  
企画・学芸部門マネージャー）

善住芳枝は、こつこつと続けられた制作活動に評価が高まつた。絵本、雑誌、デザインなどさまざまなジャンルに活動の場を広げるWAKKUNこと湧嶋克巳。日本の美である陰陽を感じると評価の高かった、

石野善浩のトアロード画廊での個展。神戸アート界を代表するNPO団体、CAPP

HOUSE（代表・杉山知子）、リ・フォープ（代表・宮崎みよし）の活動。明石出身・ロンドン在住の写真家・米田知子の奥行きのある作品世界も話題に

上った。

受賞した澤田知子は、選考会冒頭より話題に。今年から再スタートのブルーメール賞に、ユニークな若手アーティストが決定。

（文中敬称略）

## ■推薦のことば

「神戸っ子」が再刊され、ブザ大阪の展覧会「その男・榎忠」が話題の榎忠。平成17年度赤艸社賞を受賞した藤原志保が挙げられた。

統いて、平成17年度兵庫県芸術奨励賞を受賞した児玉靖枝、

## 歴代受賞者

1. 山口牧生(彫刻)
2. 丸本耕(造形)
3. 小西保文(洋画)
4. 藤原向意(版画)
5. 斎藤智(平面)
6. 鄭相和(洋画)
7. 山本文彦(洋画)
8. 堀尾貞治(造形)
9. 榎忠(造形)
10. 松谷武判(版画)
11. 木下佳通代(平面)
12. 宮崎豊治(造形)
13. 藤原志保(平面)
14. 武田則明(建築)
15. 石川晴久(平面)
16. 松原政裕(平面)
17. 植松奎二(造形)
18. 松本薫(彫刻)
19. 杉山知子(造形)
20. 田中昇(彫刻)
21. 坪田政彦(絵画)
22. 木津文哉(絵画)
23. 片山みやび(版画)
24. 片山みやび(版画)
25. 牛尾啓三(彫刻)
26. 中井浩史(絵画)
27. 奥田善己(絵画)
28. 赤崎みま(写真)
29. 宮崎みよし(造形)
30. 上村智祐(造形)
31. 上村亮太(造形)
32. 内藤絹子(造形)
33. 山口さとこ(造形)
34. 塚脇淳(造形)
35. 小野田實(絵画)

ルーメール賞も復活することになり、その清新な感じに相応しくというので、異口同音に選者から出た名前がこの澤田知子であつた。2003年弱冠26才にして第29回木村伊兵衛写真



School Days/A (2004年)

賞を受賞、突然この人の顔が美術の世界に（以外でも）溢れることになった。云わざと知れた「ID400」、「OMIAI♡」などさまざまな衣装、コスチュームに身をつつんだ彼女（よく見れば同一の彼女）が氾濫したのである。おじさんたちは「やられた」と思い、若者、とくに若い女性は喝采を送つたのではあるまいか。そして彼女は他の賞や海外でひっぱりだことなり、「COSTUME」や「School Days」など続々作品を発表、そしてまだまだ作品にしたいものは頭の引出しにいっぱいあるそうだ。見たところ若いのに、しつかりとした自身のアートの戦略、戦術がみえるところは、中学・高校が松蔭であつたと聞けば、師、椿昇氏の姿が見え隠れする。自分でシャッターを押さない写真が木村伊兵衛賞をとるなど快挙ではないか！アートではなくて、これを何というのか。読者はお気づきだろう、作者は外面つてナーニ？といつてているのだ。でも女性たちは、外面にも引きずられるのでしょうか？神戸のアートには才人が溢れてい

## ●第三十四回 ブルーメール賞 （舞台芸術部門）

それぞれの「個」を磨きあげた一心の演能

# 上田貴弘・拓司・公威・大介

## ■選考経過

洋舞では、**貞松・浜田バレ**工団の「創作リサイタル18」の作品「DANCE」が平成17年度文化庁芸術祭大賞受賞の話題。「くるみ割り人形」「眠れる森の美女」等々、上演ごとに新しい工夫がある。「創作リサイタル」シリーズにおけるコンテンポラリーダンスの群舞での凝結、凝圧した躍動美は他の追随を許さない実績が実つてきたとの評。他に「寺井美津子モダンリサイタル」「藤田佳代リサイタル」が注目された。

日舞では、「花柳呂月三回忌追善舞踊」での**花柳芳一**による「喜善舞踊」での**花柳芳一**による「喜秀、**花柳小三郎**」に評価が高まる。**大和松時**が「第47回大和松時舞の会」での地唄舞、一中節「隅田川」を振付けて舞い、平成

17年度文化庁優秀賞を受賞した。演劇から、落語の怪談噺を舞台化した劇団四季会の「怪談・江島屋騒動」が話題に。結果「上田貴弘・拓司・公威・大介」兄弟4人に授賞が決定。

（文中敬称略）

## ■選考委員



佐野達策さん  
(元神戸新聞取締役文化事業局)



岡田美代さん  
(演出家)



村井頭彦さん  
(神戸新聞社取締役)

## 歴代受賞者

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 花柳芳恵一子(邦舞)        | 18. 久田徹二(能楽)         |
| 2. 花柳吉由二(邦舞)         | 19. 大和樂蘭の会(邦楽)       |
| 3. 吉井順一(能楽)          | 20. 貞松・浜田バレエ団(バレエ)   |
| 4. 花柳芳五三郎(邦舞)        | 21. 花柳芳圭次(邦舞)        |
| 5. 花柳由斐(邦舞)          | 22. 劇団四季会(演劇)        |
| 6. 藤間緑寿郎(邦舞)         | 23. 貞松正一郎(バレエ)       |
| 7. 尾上菊見(邦舞)          | 24. 善竹忠一郎(狂言)        |
| 8. 藤井徳三(能楽)          | 25. 花柳小三郎(邦舞)        |
| 9. 海野光子(仮名手庵歌舞伎)     | 26. 若柳吉金吾(邦舞)        |
| 10. コメディード・フォーゲツ(演劇) | 27. 太田由利(バレエ)        |
| 11. 加藤さよ子(モダンダンス)    | 28. 善竹隆司・隆平(狂言)      |
| 12. 藤田佳代(モダンダンス)     | 29. 上甲裕久(バレエ)        |
| 13. 花柳五三輔(邦舞)        | 30. 藤間莉佳子(邦舞)        |
| 14. 白羽弥仁(映画)         | 31. 阿藤久子(フラメンコ)      |
| 15. 松本尚蔵(邦舞)         | 32. 小寺一登代(邦舞)        |
| 16. 楠本竜也(笑クリエイト社)    | 33. 上月倫子バレエスクール(バレエ) |
| 17. 東仲一矩(フラメンコ)      |                      |

## ■推薦のことば

観世流職分上田照也師は藤井

久雄師と並び立つ観世演能の名

手功労者でした。その上田照也

師の二十三回忌追善能（湊川神

社神能殿・一月二十九日）で、

長男上田貴弘師が『道成寺』（赤

頭）を、次男上田拓司師が『大

原御幸』を、四男上田大介師が

『安宅』を、三男上田公威師は

宗家付で居を東京へ移しており、

『安宅』でツレ郎党を勤めました。

いずれも亡父の極め付きの大曲への挑戦でした。



写真右上／「安宅」  
(牛窓正勝撮影)  
写真上／「道成寺」  
(小西宏美撮影)  
写真下／「大原御幸」  
(小西宏美撮影)



宗家のご指導もあり、いずれも、それぞれの「個」を磨きあげ、いきいき、大きく高く、正しく豊かに観世王道「本体」の凝結した技量の確かさ、素晴らしい成果を見事に披露しました。青は藍より出でて藍より青し、出藍の「金」の輝きでした。受賞はそうした確実な芸位の認証の褒賞といえましよう。これを機に、この逸材達は「生涯への覚悟」を新たに誓ったようですから、これからもそれぞれの「個」にあふれた一心の演能が期待されましよう。孫六人、甥三人も同じ舞台に立ったという後継陣も賑やかな兄弟会の健斗と声援を祈念します。 佐野漣箕

## ●第三十四回 ブルーメール賞

〈ファッション部門〉

神戸発・日本最大級のファッションフェスタ  
「神戸コレクション」の仕掛け人

# 高田恵太郎

## ■選考委員



小泉美喜子  
<本誌総編集長>



見寺貞子さん  
<神戸芸術工科大学  
ファッションデザイン学科教授>



鈴木章子さん  
<神戸ファッショントークン  
専門学校校長>



西川勝実さん  
<財団法人神戸ファッショントークン  
専務理事>

## ■選考経過

ファッショントークン都市・神戸では、さまざまなファッショントークンイベントが開催され、また多くのショップがオープンし、話題を集めている。

昨年12月に三宮にオープンした「メティテラス」は、(株)ワールドがプロデュースした、

ファッショントークンライフスタイルストア。南仏風の外観が新しいランドマークにもなっている。税

関でファッショントークンショードマーケットになりました。

日本初の試みで話題を集めた「旧居留地コレクション」をメイン

にした「旧居留地ファッショントエア」は、アーティスト

と人気ショップがコラボレート

するなど、街中を巻き込んだイベントだった。第一回受賞者で

ある藤本ハルミの功績と、「波止場町TEN×TEN」に制

切るなど、パワフルな活動に賛の声も挙がった。やはり、ここ数年に話題のアッショントエスタといえば「神戸コレクション」において他はないであろう。エグゼクティブ太郎は、アパレルメーカーである高田恵太郎は、アパレルメーカーではないであろう。エグゼクティブ

## 歴代受賞者

1. 藤本ハルミ(デザイナー)
2. 米田博司(神戸市心身障害者福祉センター)
3. 市野木悦子(ニットデザイナー)
4. KLTC(コウベジニアテラーズ)
5. 大田タマコ(アートフラワーデザイナー)
6. KFS(コウベファッショントエア)
7. 「真珠の街・神戸」を考えるプロジェクトチーム
8. 神戸市家具青年会
9. KFM(コウベファッショントエア)
10. 望月美佐(書家)
11. KFC(コウベファッショングリーネーターズ)
12. 村上和子(プロデューサー)
13. 中村一夫(デザイナー)
14. 柴田音吉(紳士服/柴田グループ代表)
15. 丹野最世子(デザイナー)
16. 大西筋子(デザイナー)
17. 福井恵子(旗の作家)
18. 服部メガネ店
19. 佐藤悦枝(アートフラワーデザイナー)
20. 山本芳樹(ホテルゴーフルリツツ・ファッショントークンライラリー館長)
21. 大丸神戸店
22. 今岡寛和(神戸ルミナリエ・プロデューサー)
23. (財)神戸ファッショントークン協会
24. VEGAブル(ジャヴアグループ)
25. シューズプラザ(くつのまちながた神戸)
26. 内海和子(ジュエリーデザイナー)
27. 藤井美智子(デザイナー)



「神戸コレクション 2006S/S」より

どを経て神戸ファッショントレーディングプロジェクトに参加、神戸のファッショントーンで長く活躍してきた。過去の実績を含めて授賞が決定した。

### ■推薦のことば

いまや日本で最大級のファッションイベントとして定着してきた「神戸コレクション」のエグゼクティブプロデューサー、いわば仕掛け人が高田恵太郎氏だ。

今年で4年目を迎えた神戸コレクションはチケットが即日完

売という人気振りで、今回も神戸ファッショントマートに600人の若い女の子が押し寄せた。続いて開催された横浜会場や、北野クラブ「プリュス」で開催された「プリュス」も大変な賑わいで大成功裏に終了した。

当日の様子は後日主催の毎日放送により特集として放映されるため、ファッショント都市神戸が全国に情報発信される効果は絶大だ。若い女性にターゲットを絞りイベントをここまで育て上げた高田氏の功績は誰もが認めるところだろう。

氏の思いは、アパレルを核として、真珠、靴、灘の酒、ココヒー、洋菓子、洋家具などとコラボレートしながら神戸の地場産業もアピールしていくたいといふもので、さらに、これを1日だけの賑わいで終わらせず、前後にイベントを集中させるこにより、若い女の子が神戸の街に少しでも長く滞留し、グルメやショッピングを楽しんでもらおうと、新たな仕掛けを計画中だ。

高田氏の今後益々の活躍を期待したい。  
（西川勝実）



若柳吉金吾さん

父を偲ぶ

若柳吉童追善

## 金鈴会

第62回を数える恒例の金鈴会公演が、4月23日（日）に

神戸国際会館こくさいホールでおこなわれる。今回は昨年85歳で亡くなられた若柳吉童さんの追善興行となる。

「父にはいろいろなことを教わりました」と、若柳吉金吾さんは師であり父であつた吉童さんのことを偲んで、稽古場のすり減つた檜の床眺めながら静かに語った。「亡くなつてから

一年が経ちます。きっとあの床板はすべて知つているのでしようね……」

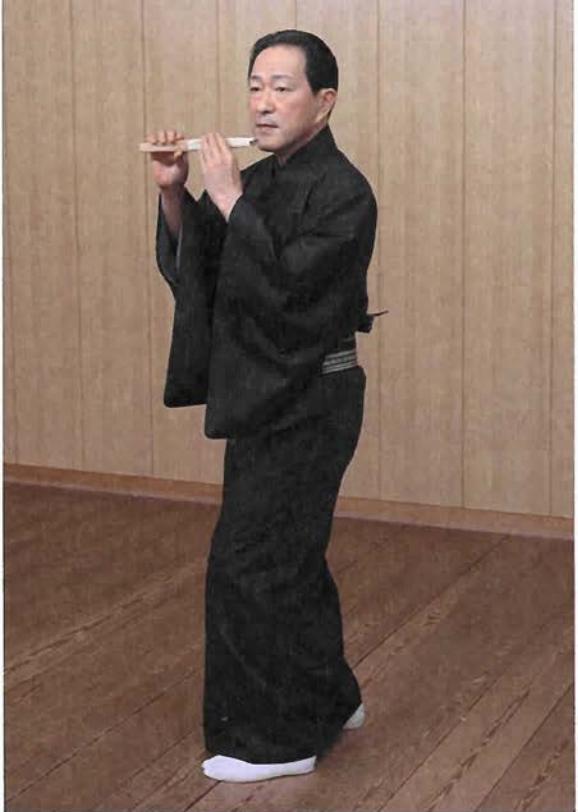
吉金吾さんは昔、舞踊家というのは作品が“形”として残らないことを悲しいことだと思った。しかし、教えは人を介して人に生き

続けることの素晴らしさに気付き、その教えが風化しないよう、そして花開くようにと、常に時代とともに研ぎ澄まし、上品な舞踊をと心がけて自ら舞うだけなく、お弟子さんたちにも踊る楽しみや踊りの精神、そして舞踊の藝術性を伝授するという重要な役割を担つてゐる。「今は教えることの大切さをひしひと実感していきます。大切なのは”その人を生かす”ということと、心の理解・表現という一連の流れを伝えることにあると思います」と吉金吾さんは背筋を伸ばした。

吉童さんの「身体から匂うような」踊りと、「その時代の人となつて踊る」という心は、吉金吾さんとそのお弟子さんたちにしっかりと受け継がれ、それが理解と個性に咀嚼され美しい舞となり、舞台を楽しく華やかに彩る。プログラムの後半には、吉童さんが最後に踊つた“四季の山姥”や、吉金吾さんが吉童さんに勧められて振付をした“雨の四季”など吉童さんゆかりの演目を配してゐる。神戸に愛された吉童さんの魂も、この日はきっと舞台に帰つてくる。



「四季の山姥」を踊る吉金吾さん(右)と在りし日の吉童さん(左)



るだろう。

伝承の「棒」をむしろ積極的に未来への「門」と捉え、時代と個性を柔軟に迎え入れた吉童さんの精神と、そこから生まれた踊りは、はじめて日本舞踊に触れる人たちにも受け入れられやすく、感銘を与えるに違いない。サロン的な雰囲気の中、季節を愉しむ心や伝統芸能の奥深さ、そして日本の良さを金鈴会では是非味わってほしい。

金鈴会  
善追童吉柳若

主催 金鈴会  
公演 神戸新聞社 兵庫県舞踊文化協会  
日時 4月23日(日)10時開演  
会場 神戸国際会館 こくさいホール ☎078-231-8161  
神戸市中央区御幸通8-1-6 三宮駅よりフラワーロードを南へ徒歩約3分  
<http://www.kih.co.jp/hall/>  
お問い合わせ:若柳吉金吾 ☎078-341-6832